

●編集顧問／牧野永城、菅原克彦、阿部令彦、出月康夫、武藤輝一、田島知郎、萩原 優、北島政樹、炭山嘉伸

●編集委員／跡見 裕、畠山勝義、桑野博行、宮崎 勝、島津元秀、渡邊聡明

●編集同人／佐野圭司、近藤芳夫、阪口周吉、鈴木章夫、秋山 洋、塩谷信幸、諏訪邦夫、岡崎春雄、松元輝夫、折田薫三、細田泰之

本号の特集である「転移性腫瘍」で思い起こすのは、山崎豊子が40年以上も前に書いた『白い巨塔』である。遠隔転移をきたした悪性腫瘍は根治がほとんど絶望的で、ひたすら延命効果をはかる治療計画が立てられなければならないのに、主人公の国立浪速大学附属病院第1外科教授である財前五郎は噴門部癌患者の肺転移を見落としたまま胃全摘術を行った。患者は術後、胸部転移巣の急速な増悪をきたして癌性肋膜炎のために手術死亡し、財前はその当時としては稀であった医事裁判の被告となる。地裁の第1審では無罪となったが控訴され、高等裁では逆転して有罪判決を受ける。その時、財前は言い放った。「最近、医療過誤が社会問題化しつつある時に、こんな判決がまかり通るとなれば今後、多くの医師は、積極的な診療を尻込みするだろう、医療の本質には、常に或る程度の危険が内在しており、われわれ医師は、絶対、悪意なき過失を侵さぬとは云い難い、(中略)、このままでは医学界全体が“為さざるに如かず”の萎縮医療になる危険がある」

財前の言葉はそれから40年経った現在でも新鮮であり、医療紛争が日常化し外科医が減少傾向にある今日、あらためて医療側から巻き起こっている。この論理そのものには一理あり、多くの医師が支持すると思われる。しかしながら、山崎豊子が悪役として描いた財前は患者の死を悼むことなく、また、不誠実な対応が患者側の不信を招いたことに思いを致すこともなかった。ただ保身のために自身の過失を隠蔽したうえで、この発言を行った。医師の論理が患者に受け入れられるためには、その姿勢・行動が患者の納得のいくものではないのは昔も今も同じである。医学が進歩して、転移性腫瘍を含め、不治と云われる疾患がたとえ完全に治癒できる世の中になったとしても、

(島津元秀)

臨床外科 (第64巻第12号)

発行 株式会社 医学書院
代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23
社内案内 (03) 3817-5600
販売部直通 (03) 3817-5659・5660
振替口座 00170-9-96693 番

2009年11月20日発行(毎月1回20日発行)

定価 2,730 円 (本体 2,600 円 + 税 5%)

2009 年年ぎめ予約購読料 40,160 円
電子ジャーナル閲覧オプション付 52,200 円
増刊号を含む 13 冊、税込、送料小社負担

本誌編集室直通 (03) 3817-5708
ファクシミリ (03) 3815-7802
E-mail: ringe@igaku-shoin.co.jp

担当 田村・阿部・安部
印刷所 三報社印刷(株) 電話 (03) 3637-0005
広告申込所 日本医学広告社 電話 (03) 5226-2791

- Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2009, Printed in Japan
- 本誌に掲載された著作物の複写・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込みおよび送信(送信可能化を含む)に関する許諾権は医学書院が保有しています。
- JCOPY** (株)出版者著作権管理機構 委託出版物
本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、(株)出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。
- 医学書院ホームページ(インターネット)は <http://www.igaku-shoin.co.jp> です。
- 「臨床外科」ホームページは <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/ringe/> です。